

vol.2

2025.7.16 発行

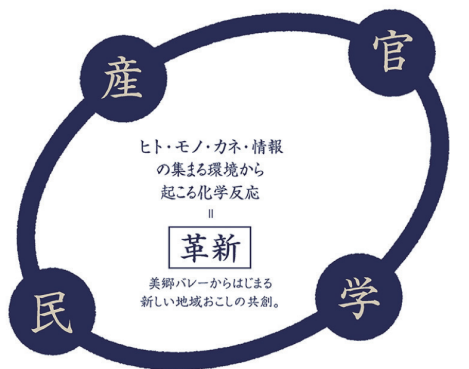
月刊タイガー通信

File.2

TIGER's
Value Creation Story

美郷町との連携による「美郷バレー構想」に参加した捕獲対策事業

これまでの鳥獣被害対策は侵入防止対策が中心でした。そこに加害個体の捕獲を追加、さらに捕獲した獣を資源として利活用し、地元の農業を守りながら新たな地域貢献のかたちを目指す取り組み「美郷バレー構想」について、この事業に参入した背景と今後の展望をご紹介します。



美郷町とタイガーの関係

美郷町とは

2004年(平成16年)10月1日、郡内の邑智町と大和村が新設合併して発足

人口 4355人

面積 282.92km²(居住可31.39km²)

世帯数 1847世帯

高齢化率 48.1%



美郷町とともに

- 2000年ごろ 近畿中国四国農業研究センター(当時)の江口さんをきっかけに美郷町を訪問する
- 2007年 乙原地区にあった近中四農研センター試験圃場(通称:青空サロン圃場)に電気さく資材を納品
- 2011年 山くじらフォーラムに出展(7回にわたり、美郷町で社員研修を実施)
- 2019年 山くじらブランド包括的連携に関する協定を締結
- 2021年 「美郷バレー タイガー株式会社中国営業所」を開設

美郷町で捕獲対策事業を始めた背景

鳥獣被害対策から加害個体を捕獲し、資源としての利活用へ

75年前に動物を追い払うための爆音機のメーカーとして創業した当社。以来「動物との共存共栄」をモットーに取り組んできました。時代の変化にともない、加害個体の捕獲事業にも取り組み、「山くじらブランド包括的連携に関する協定」を締結して2021年には鳥根県美郷町に営業所を設置し本格的に始動。美郷町でもともと行われていた、先進的な獣害対策として、町民自ら、狩猟免許も取得し、捕獲した獣を食肉や革製品への加工などの利活用していました。高齢化や人口減少による人手不足といった問題があり、人が集まる「美郷バレー構想」が発足されることとなりました。その中で当社は、捕獲対策事業から協働していくこととなり、さらには食肉加工も担っていくこととなりました。



実際の取り組み内容

美郷町での活動内容

1.有害捕獲及び豚熱の防疫対策

加害個体の捕獲、豚熱の感染防止対策

2.野生動物の肉(ジビエ)の提供

学校給食や飲食店へのジビエの提供

3.肉以外の部分の利活用

地元の婦人会への皮の提供や、安佐動物公園への屠体給餌としての提供

4.学校との連携授業

小中学校や高校、大学への資源利活用の授業

5.美郷バレーへの視察の対応

年間、約60市町村(2024年の実績は54件)から視察で来町されます。その多くは、「鳥獣被害対策と町おこし」を目的としたものです。

6.ドローンによる省力化

林業分野の運搬作業の省力化や野生動物の生態調査



美郷バレー構想とは

アメリカ・カリフォルニア州シリコンバレーは、そこに行くと新しい技術や情報人脈が手に入るといわれる世界経済をリードする中心地。分野こそ違うものの「鳥獣被害対策と住民の取り組みに関しては、鳥根県美郷町に行けば、新しい技術や情報が入り、人脈もひろがる」という思いから、鳥獣被害対策の最先端を進み、日本をリードする「鳥獣被害対策版シリコンバレー」すなわち、産官学民が自発的に集い、互いが刺激し合って地域活性化の革新につなげていく環境の場が「美郷バレー」であり、そこに共感した関係人口を広げ、環境づくりの場を構築していくことが美郷バレー構想です。



美郷バレー構想

美郷バレーを形成する産官学民の一覧

- タイガー株式会社
- 古河電気工業株式会社
- 株式会社テザック
- 津市(三重県)
- 丹波篠山市(兵庫県)
- 大磯町(神奈川県)
- 麻布大学(神奈川県相模原市)
- 株式会社BO-GA
- 里地里山問題研究所(兵庫丹波篠山市)

